

KUMADAI TSUSHIN

熊大通信

Vol.23
Jan.2007

特集

知と社会
Vol. 23

肥後細川家に伝わる
貴重な史料を読み解く

財団法人「永青文庫」寄託

熊本大学附属図書館「細川家北岡文庫」



Kumamoto University

国立大学法人 熊本大学



熊本大学の約束(KU4U)

Kumamoto University For You

私たちは、熊本大学を開かれた心地よい環境の大学として、次の4つのことに全力を投入します。

Upgrade

未来を生き抜くプロフェッショナルの養成

Union

地域連携と社会貢献

Unique

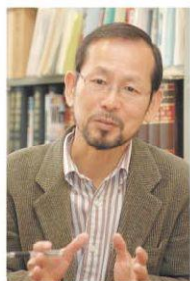
新たな知的価値の創造

Universal

留学生教育と国際貢献

CONTENTS

1 学長あいさつ



2 知と社会 Vol.23

肥後細川家に伝わる貴重な史料を読み解く

財団法人「永青文庫」寄託 熊本大学附属図書館「細川家北岡文庫」

6 夢の実現 Act.11

「生活」をまるごと研究！

時代の変化にもフレキシブルに対応

教育学部家政教育学科助教授 八幡（谷口）彩子

8 地域とともに

より軽く、より強く、産業界待望の高い性能 熊大の次世代耐熱マグネシウム合金

大学院自然科学研究科教授 河村 能人

10 卒業生を訪ねて

「支払い日」を「受取り日」に変える！ 商習慣の変革に挑戦する若き経営者

株式会社フィテック 代表取締役 深田 剛さん

12 国際交流

熊大の「知」を世界に売り込む

研究・国際部 国際課 菊地 晋一

14 熊大 INFORMATION

おすすめの一冊 留学生センター長 文学部教授 坂田 正治

熊本新哲学の道 生涯学習教育研究センター助教授 平岡 義裕



表紙 White Bear 材料(紙)

作者/中村靖浩 NAKAMURA YASUHIRO

プロフィール：熊本県天草生まれ。熊本大学教育学部美術科卒業後、ゲーム制作会社でグラフィックデザイナーとして7年勤務。今年からフリーのイラストレーター、アーティストとして活動を開始。パソコンによるイラストの制作と同時に、紙を使った立体なども作成しています。

コメント：シロクマと女の子です。シロクマは北極圏などに生息しています。ある映像で、氷の間に出来た穴にじっと待ち構えて食料になるアザラシなどが呼吸をしに顔を出すのを何日もずっと待っているものがありました。眠きただけでも、狩りの機会を逃してしまう可能性があるのです。クマも大変です。これらの立体はリアルというより少し荒めの処理で手の跡を残す事によって、温かみや存在感を出すようにしています。

<http://www1.newweb.ne.jp/wb/spankposs/>



新年のご挨拶

熊本大学長 崎元 達郎

新年あけましておめでとうございませう。

昨年秋の新首相就任以降、高等学校における必修科目未履修問題、いじめによる自殺、教育再生会議の始動、教育基本法の改正等、教育に関する話題にこと欠かない社会の動きの中で迎えた新年ですので、以前にも増して、教育や大学の重要性和責任を認識して取組むべき一年になると思われます。

国策として科学技術創造立国、人材立国を目指す中での教育や大学の重要性の認識に基づけば、国立大学法人の予算削減は日本の将来に及ぼす影響が甚大であるので、そのことを長期的に見据えた政策と予算投入がなされるべきであると考えます。

熊本大学も法人化後の厳しい財政状況と競争的環境の中でも、質の保証さ



れた国際水準の教育と世界をリードする学術研究、先端医療、高度地域医療、産学官連携等を通じた地域貢献を実施しており、地域に根ざしつつ、国際的にも存在感を示す大学として発展を遂げるべく全構成員の英知と創意を結集して努力しております。

昨年の実績のうち、主な事項のみ挙げますと、「教授システム学専攻(修士課程)」の設置、薬学部、工学部、自然科学研究科の改組、「臨床法学教育研究センター」の設置、教育に関する競争的資金(GP等)5件の獲得、「創薬研究センター」の設置、附属図書館南棟の整備、女性研究者支援モデル育成事業の採択、阿蘇火山博物館や芦北町との連携協定締結、「韓国フォーラム」の開催、「ユニバーシティミュージアム構想」の策定と実施、「阿蘇の文化遺産展」の開催、附属病院中央診療棟の竣工、「都道府県がん診療連携拠点病院」に認定、等があります。

今年の主な活動としては、以下のことが挙げられます。

教育においては、eラーニング推進機構と同推進室の設置による全学eラーニングコンテンツ開発の推進、医

学部保健学科の大学院の設置、教職大学院の設置、人文社会科学系大学院の再編等に関する取組みを行う予定です。

研究においては、2つのCOEや他の国際的研究実績に基づく「グローバルCOE」の獲得が大きな課題であります。また、4月よりの助教等の新職制の導入に関連して、若手研究者の人材育成の仕組を検討する必要があります。

平成18年度補正予算または平成19年度の予算においては、附属病院東病棟の建設、附属学校を始めとする耐震補強等の施設整備費を要求しており、本学の発展を支える予算措置を期待しているところです。私共としては、平成20年度の法人暫定評価があることを念頭に、引き続き教育・研究・医療に力を注ぐべきと考えています。

年頭にあたり、2006年の輝かしい実績・成果を踏まえて、2007年が更なる充実・発展の年となるよう学内外の関係各位の御理解と御支援を心からお願い申し上げます。

熊本大学理事・副学長 (平成18年11月20日～)



倉津 純一
副学長(病院経営担当)
附属病院長



足立 啓二
副学長(教育研究組織
再編担当)



野口 敏夫
理事(法務担当)
(非常勤)



佐藤 隆
理事(財務・施設担当)
事務局長



森 光昭
理事(人事・労務担当)



菅原 勝彦
理事(目標・計画・評価・情報・広報担当)
副学長



阪口 薫雄
理事(研究・大学改革・社会貢献担当)
副学長



西山 忠男
理事(教育・学生担当)
副学長



天正 18(1590)年に細川藤孝(幽斎)が娘に書き与えた、直筆の新古今和歌集列帖装写本と江戸時代の二の丸の絵地図

特集

肥後細川家に 伝わる 貴重な史料を 読み解く

財団法人「永青文庫」寄託
熊本大学附属図書館「細川家北岡文庫」

室町時代におこり、肥後54万石の雄藩の主となった細川家は約700年の歴史を誇る名家。質・量ともに全国有数の史料として知られる熊本大学附属図書館の「細川家北岡文庫」には、細川家に伝わる美術品や史料を所蔵管理する財団法人「永青文庫」(東京)から寄託された古文書や典籍など、約5万点が保管されている。多くの研究者によって読み解かれ、研究が進む同文庫の貴重な史料とその研究の一端を紹介する。



藤孝（幽斎）直筆の新古今和歌集列帖装写本は、3重の箱に収められていて、梅の蒔絵が施された最も内側の箱には、筆跡鑑定書にあたる極札（きめふだ）などが添えられている。



熊本大学附属図書館の地下書庫。「奉行所日記」などが年月ごとにきちんと綴られた帳簿に、当時の人々の几帳面さがうかがえる。元禄年間（1694～1704）の記録には細川家江戸藩邸お預かりとなった大石内蔵助の名もある。

ホンモノが持つ、圧倒的な迫力

天井までであろうかという書架にならぶ、おびただしい和紙の束。きつちりと綴られ束ねられたそれら史料には、墨文字が鮮やかに浮かぶ。「細川家北岡文庫」（通称「熊本大学永青文庫」）の史料は、熊本大学附属図書館の地下書庫で大切に保管されている。藩政時代の記録や日記、絵図などが並ぶ様子は、スクールの棚でなければ、まるで時代劇のセットのようだ。しかしここにあるの

は、元禄を、文化文政を生きた人たちが残した、紛れもないホンモノ。部屋の隅にある机では、入室を許可された研究者が黙々と史料の文言をノートに書き写していた。

その様子を視界に入れないが、「まだすべての史料が読み解かれたわけではないんですよ」と語るのは、財団法人「永青文庫」の職員として長くこの文庫の管理を担当してきた、川口恭子熊本大学客員教授だ。

藩の公文書と大名家の私文書の2つが揃う貴重な史料

昭和25年、細川家第16代当主護立氏によつて永青文庫が設立された後、川口客員教授は、熊本市の北岡にあった



「昔を知り伝えることは、今を生きる私たちの義務ではないでしょうか」と語る川口恭子客員教授。

細川家旧邸の蔵に通い、古文書や典籍の整理を手伝った。「古文書類は5つの蔵に保管されていました。熊本駅に近かったため機関車のばい煙が入り込んだり、DDT（殺虫剤）が振ってあったり、大変でした」。蔵の整理には数か月を費やした。

そつした苦勞の甲斐あつて、附属図書館に寄託された膨大な史料は「大名家の私文書と藩庁の公文書の両方が、

COLUMN.1

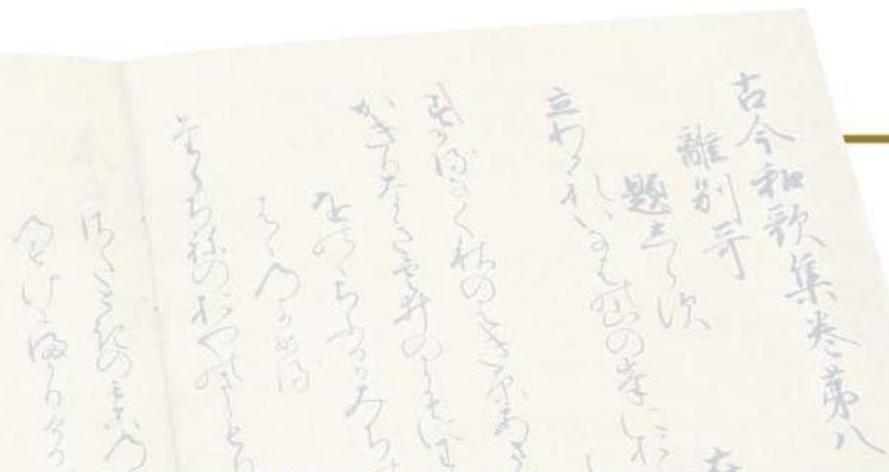
財団法人「永青文庫」

中世細川家初代の細川頼有以降8代の菩提寺・京都建仁寺塔頭永源庵の「永」と近世細川家初代藤孝（幽斎）の居城青龍寺城の「青」の二字をとって、財団を設立した16代護立氏が名付けた。昭和47年から一般公開を始め、翌48年に博物館法による登録博物館となり現在に至る。細川家に伝わる美術工芸品などを中心に所蔵品を展示。来年から、その一部が熊本県立美術館で常設展示される。

熊本城は400歳

細川氏の居城だった熊本城は2007年で築城400年。熊本では2008年5月まで、築城400年を祝うさまざまなイベントが催される。





吉村豊雄文学部教授。「データベースは、4、5年後を目標に完成させ、日本、そして世界に発信したいと思っています」



上/「寛帳」の解析風景。現在までに、両帳簿に記載されている計9万件の案件のうち2万件の解析を終えた。下/「従天明八年至寛永政元年 寛書」と「寛永元年四月ヨリ 萬寛書 十二月迄」と表題がある古文書。400年以上を終った帳簿とは思えないほどつややかに輝く和紙と墨文字が残る。

「農民の上申書が、藩の公式記録として残っている。江戸時代の庶民に近せそんなことができたのか。また、近世大名家では藩の家臣のうち8割が職業

事業を提案し、実行する 江戸時代の庶民たち

「近世武家社会の研究者だったが、昭和63年に熊本大学に赴任、文庫の史料に会ったことが一つの転機となったという。

組織的・系統的な文書として、700年もの間、分離・散逸せずに残されている貴重なもの」と高く評価され、多くの研究者を魅了している。

「二地方大学にこれほどの体系的古文書が保管されているのは、世界的にもあまり例がない」と語る本学文学部の吉村豊雄教授もその一人。もともと

「町在(まちざい)」「社会貢献をした人に報奨金を与えた記録」の解析とデータベース化を進めている。そこから吉村教授は、18世紀中ごろに住民参

軍人で、行政マンはわずか2割。そんな少数でどうして行政ができたのか。吉村教授が抱いた疑問への答えが熊本大学永青文庫にあった。

吉村教授率いる研究チームは、約400冊におよぶ「寛帳(おほえちよう)」(藩の公文書。水路の敷設や新田の開発など農民や町人から出された提案書も含まれる)や、約110冊ある

COLUMN.2

聞こえる古人の息遣い

「十一番忠利公御印物」は、忠利公の御印がある数々の文書の散逸を防ぐため、貼ってつながれた巻物。忠興、忠利、光尚の三公の御印はなんとローマ字。



家臣もそれに倣ってローマ字印を作ったが、正保4(1647)年ポルトガル船長崎来航以降、漢字印に変えられた。書簡からわかる贈答品もハイカラで、「ハルテス」と呼ばれる南蛮菓子を贈ったり、忠利公が島原の乱にブドウ酒を持って行った記録も残っている。「古文書から、時代背景や当時の生活習慣など、実にいろいろなことを読み取ることができる。墨文字は、その濃淡で筆の運びまでわかる。すばらしいですね」と川口客員教授。永青文庫古文書の一枚一枚に、営々と時代を書き残した人々の息遣いが聞こえてくる。

「農民たちがいきなり上申しても通らない。庄屋や惣庄屋、郡代などを中心

加のシステムができていた、という考えを導きました。

永青文庫は 歴史の宝庫

細川護熙 元内閣総理大臣・元熊本県知事
永青文庫理事長

2008年春以降、熊本県立美術館で常設展示されることになった永青文庫のコレクション。細川護熙永青文庫理事長に、熊本大学と永青文庫などについて話を聞いた。

永青文庫の常設展示では、忠臣蔵や宮本武蔵など皆さんに馴染みの深い素材に、分かりやすい解説をつけ、より親しんでいただけたらと思っています。熊本大学で今研究を進めてもらっていますが、永青文庫の古文書には、まだまだ未解説の部分が多いんです。作家の故司馬遼太郎さんがよく「細川の歴史はどこを切っても大河ドラマになる」とおっしゃっていましたが、永青文庫は、もしかしたら日本の歴史を書き換える事実が眠っているかもしれない、歴史の宝庫。今後の研究の進展に大いに期待しています。



法学や文学、医学、工学など 幅広い分野の研究にも

文庫の史料を読み解き、研究を進めているのは、吉村教授のような歴史学

に、「合意」が図られていたと考えられますが、肥後では18世紀中ごろには、庶民が政治に参加するシステムができていたのではないかと。また、当時の年貢は全て武家の給料や大名の生活費で、藩には公共事業を行う財源はなかった。新田開発や架橋などの事業を提案し実行するのは農民や町民自身で、藩はその許認可を行うだけだった。「だからこそ、わずかな武士でも藩政が行えたし、明治維新で300年にわたる武家支配が混乱なく終わったのも、こうした住民参加のシステムがすでにあったからだと考えられます」

者だけではない。名君の誉れ高い8代重賢公の時代、宝暦4（1754）年に制定された肥後藩の「御刑法草書」は、当時主流だった追放刑をなくし、徒刑を採用している点で、江戸時代刑法の最高傑作といわれる。こちらは法学者による研究が進んでいる。ちなみに、肥後藩の徒刑は足かせなしで寝かせ、労働には1日あたり2人扶持（米1升）を渡し、刑期満了で釈放するときには貯金を持って帰らせるというもの。社会復帰を理念にしているのだから驚く。この草書には刑を終え村に帰って5年間まつとうな生活をしたことを村役たちが認め、申し出ると、前科者の印である入墨を消すというくたりがある。この史料をもとに本学の小野友道顧問は、皮膚科医の立場から入墨についての考察も行っている。

さらに文学の世界でいえば、文武両道で知られた細川藤孝（幽齋）公が文禄・慶長のころ集中的に書写した歌書・歌合は、中世歌学の到達点を示すとともに、『和歌八部抄』などの底本となっている。細川家に残された典籍の多くが国文学の研究に貢献しているのだ。また、肥後六花をはじめとする植物や動物などについての史料は博物館学へ、熊本城の絵地図や城郭の間取り図などは工学の研究へと多くの分野で研究に活用され、珍しいところではスポーツ科学の立場から、立ち泳ぎを特徴とする日本泳法のひとつ、小堀流踏水術の研究のため、同文庫の史料に接したという研究者もいる。はるかな時空を超えて伝えられてきた文庫の史料は、過去と現在を結び、私たちに語りかけ続ける。

夢の実現 *Dreams come true* Act 11

熊本大学教育学部
家政教育学科

助教授

八幡(谷口)彩子

「生活」をまるごと研究！

時代の変化にもフレキシブルに対応

人の生活全般にアプローチし、人が生活するためのよりよい環境をつくる。

八幡彩子助教授の専門分野である家庭経営学のテーマです。

そこは人文科学・社会科学・自然科学というさまざまな分野の要素が含まれます。広範なジャンルを包括する独自の世界のおもしろさをうかがいました。

人間生活全体を研究対象に

「大学に入って、それまで抱いていた家政学のイメージが全く変わってしまいました。あまりに違ったので、これはきちんと勉強しなくては、と思ったんです。専門である家庭経営学との出会いをそう振り返るのは、家政教育学科の八幡彩子助教授です。

今でこそ家庭科の授業は、料理などの実技の内容だけでなく、保育や介護、家族や消費者などの人間の側からも生活のあり方を学ぶ総合的アプローチが重視されていますが、八幡先生の中学高校時代は、食物や被服などの物に関

する学習が中心。家政学はその延長だと思っていました。「大学で出会った家庭経営学は、人と環境との関わりも含め家庭を基盤に人の生活全般をトータルに考え、よりよくしていく」というもの。この場合の家庭とは夫婦と子ども、ということではありません。ひとりでも『家庭生活』は営めるんです。近代家政学が始まったとされるアメリカでは、家庭経営学は環境学(エコロジー)と「兄弟姉妹の間柄」。環境を抜きに人間生活を営むことはできないのですから。

「家庭は命とくらしを育む場で、そこでの生活がテーマですから家庭経営学

の範囲は非常に広く、衣食住はもちろん、介護・福祉、消費生活に関すること。さらに育児・教育をはじめ、家庭内の人間関係、子どもとの関係・夫婦の関係。そういったことを通して人と環境との関係を考え、よりよい環境をつくるのが家政学の使命です」。

知識を社会に還元できる プロフェッショナルに

人間生活全般をより良くする家政学の使命を果たすためには、学問で得た知識を実生活に役立てることが求められます。「食を例にとれば、アカデミックスな栄養学・食品学・調理学などを土



八幡先生の講義「女性と職業」。生活の技術だけでなく生きていく上での考え方を学ぶのも家庭経営学。

台に、個々の家庭で食生活の問題を実践的にサポートできる人材を輩出するのが、この学問の役割なんです。研究成果を社会に還元できるプロフェッショナルを育てることが求められています。



海外研修先のワシントンD.C.の国立アメリカ歴史博物館には「家政学の母」であり「環境学の母」といわれるエレン・リチャーズのパネルが展示されている。

社会の変化とともに

社会の最小構成単位である「家庭」がテーマだからこそ、社会とのつながりは密接です。密接だからこそ、岐路に立つこともあります。「社会の変化にフレキシブルに対応する必要があるのです」。一般にいう学問や技術が「日進月歩」というのと違い、家政学では「真理」そのものが時代の波に洗われていま

す。「私たちの一つ前の世代の研究者は伝統的家庭像に代わる新しい価値観を提唱してきました。私たちの世代はその新しい考え方と伝統的考え方を合わせて、これからの人間のあり方を探求しています。新旧両方から取るべきものを取る、ということを考えてきました」。

人の生活の研究者として八幡先生は学内の男女共同参画推進や子育て支援

に関わり次世代育成支援行動計画策定にも関わってきました。先生自身、双子の女の子の母親として研究と育児の両立に多忙な日々を送っています。「パートナーは私より家事が上手で多方面にわたって助けられています」。研究者であり、家庭人であり、母親であり…広範なフィールドを探索しながら、生活者としても多角的に活動しています。

す」。中学や高校で学ぶ家庭科は自分の生活をマネジメントするものであるのに対し、大学で家政学を学ぶ意味は社会人となって他の人のために役立たせることです。昨今話題の食育でも、食に関する専門的知識を社会と人の生活にどう還元するかが問われています。

また、学問領域の広さを活かし、さまざまな分野へ進出することができます。「もちろん、教育学部ですからの学科の目標は第一義的には家庭科教育のプロを育てることです。でもそれだけでなく、食品やファッション、消費生活関連、住居学を学んでインテリア関連など、卒業生の進路は多岐にわたります」

選択肢の幅が広く、自分が社会にどう役立てるか、学びながらじっくり考えて自分に一番合った道を選択することができます。



PROFILE

八幡(谷口)彩子(やはた(たにくち)あやこ)

熊本県楠木町出身。お茶の水女子大学大学院家政学研究科(修士課程)修了。博士(学術)。専門分野は家政学原論・家政学史・家庭経営学・家族関係学・家庭経済学など。主な著書に『明治初期における翻訳家政書の研究』など。教材開発や「生きる力」を育む家庭科教育のあり方などで、学校現場との連携にも関わっている。



熊大発 驚異の耐熱マグネシウム合金

実用金属の中では最も軽いマグネシウム。振動吸収性が高いことから、自動車のハンドルの芯に使われたり、剛性（曲がりにくさ）と熱伝導性（放熱性）の高さから、パソコン、携帯電話、デジタルカメラなど情報家電にも広く使用されています。ただ、マグネシウムは強度や耐熱性の点で弱点があり、強度を上げる研究が盛んに行われています。

そんな中、熊本大学自然科学研究科の河村能人教授によって発明された「次世代耐熱マグネシウム合金（熊大Mg合金）」は、従来の高強度マグネシウム合金をはるかに超える強度を持つことで注目を集めています。

この分野におけるトップ研究と認め



学外者との研究打ち合わせも頻繁に行われています。



さまざまな形状に加工されたマグネシウム合金は現代社会に不可欠の製品をつくりだします。

PROFILE

河村 能人(かわむら・よしひと)

石川県出身。名古屋大学工学部卒業。名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了後、アンソー研究開発部研究員。東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了。工学博士。東北大学金属材料研究所助教授などを経て2000年10月に熊本大学工学部助教授。2004年教授。2006年4月より現職。

地 域 と と も に 大学院自然科学研究科教授 河村能人

より軽く、より強く、 産業界待望の高い性能 熊大の次世代耐熱マグネシウム合金

自動車や航空機、家電など現代生活に不可欠な多くの製品には、より軽く、より強く、より高温に耐える金属が求められています。これまでの合金を凌駕する高い性能を実現したのが、大学院自然科学研究科の河村能人教授の発明による「次世代耐熱マグネシウム合金」。たとえば自動車や航空機などに使用する金属を軽くすると、燃費が向上し、二酸化炭素排出量削減にもつながります。河村教授の研究は、新たな地域産業のチャンスを創出し、またエコロジカルな製品開発に大きく貢献することが期待されています。

られ、経済産業省の「地域新生コンソーシアム研究開発事業」や科学技術振興機構の「地域結集型研究開発プログラム」に採択されました。前者は平成16・17年度の2年間で1億2千万円、後者は平成18年度から5年間で12億円という巨額の研究費が助成されており、期待の大きさがうかがえます。

一生に一度出合えれば 幸せな発見、広がる可能性

「研究者として一生に一度出合えれば幸せ」と河村教授自身が語るほどの発見。それは、マグネシウムに17種類の希土類元素のうち特定の7種類の元素と亜鉛を一定の割合で加えると、軽さを保ったまま強度と耐熱性が飛躍的に増すというものでした。その後、河村教授を中心に、この特性を最大限に活かすための合金製造方法が研究され、2001年には粉末冶金法（溶けた金属にガスを吹き付けて急速冷却する方法）で「熊大ナノ結晶合金」が、2003年には鑄造法（溶けた金属を鑄型に流し込んで固める方法）で、「熊大鑄造合金」が発明されました。

これら熊大発の「次世代耐熱マグネシウム合金」には、室温で航空機に使用されている高強度アルミニウム合金（超タジュラルミン）の2倍の強度を持

ち、高温でも耐熱アルミニウム合金の強度を凌駕する優れた特性を備えています。「例えば、自動車のエンジンブロックやピストンがありますね。これまでは、耐熱性がネットクになって使用できなかった部分に次世代耐熱マグネシウム合金を使えば、自動車の軽量化が進み燃費が向上し、二酸化炭素排出の削減にもつながります」と河村教授は研究への期待を説明します。

産学官研究の拠点から 国際的な生産拠点へ

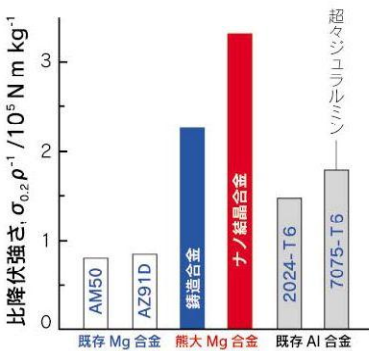
「中央の有名な研究者を呼んで勉強し、新しい情報を吸収しよう」と、2003年に河村教授も発起人となって「高性能Mg合金創成加工研究会」が設立されると、国内外の研究者や研究機関が多数参加。当初は地場企業だけだった産業界でも、大手自動車メーカーや材料メーカーなど、全国から多数の企業が参加するようになりました。現在では、産業界からの出席が5割以上、研究会はシンポジウムに近い大規模なものになっています。

また、河村教授が統括研究者を務める前述の「地域新生コンソーシアム研究開発事業」における「革新的高強度マグネシウム合金製造技術の開発」にも多くの企業が参加。「大型製造では不純

物が混ざりやすく、成分の均一化が難しい」と言われる次世代耐熱マグネシウム合金の大型製造に関する技術の確立に強い関心を寄せています。

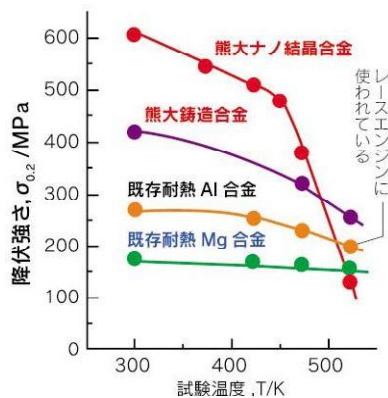
他方、「地域結集型研究開発プログラム」における「次世代耐熱マグネシウム合金の基盤技術開発」の目的は、新技術の開発と事業化の促進。河村教授は「プログラム終了時には、次世代耐熱マグネシウム合金が実用化され、企業に試作品を提供する加工技術センター、知的財産を保証する研究開発センター、そして事業支援と人材育成を担当するセンターが、それぞれ独自で運営できる体制ができあがっていなければなりません」と意気込みます。

熊本県は自動車部品の供給拠点ですが、事業所数は九州で三番目。「次世代耐熱マグネシウム合金を基盤とした新産業が熊本で発展すれば、地域の企業を育てるだけでなく、中央の大企業を呼び込む効果も見込めます。また、熊本は、マグネシウムの一大産地である中国ほか、韓国、台湾からも近い。欧米ではなく、環黄海域国際連携を強めることが熊本大学としての役割でもありません」と河村教授。その視線は、近い将来、熊本が次世代耐熱マグネシウム合金の一大生産拠点となる日をつかりととらえています。



「室温における合金の強度比較」

熊大 Mg合金の「ナノ結晶合金」は、室温で超タジュラルミンの2倍の強さ。



「温度変化による合金の強度比較」

熊大 Mg合金はある程度高温までは、既存のMg合金やAl合金よりも強い。



「広がる熊大 Mg合金の用途」

ハンドルをはじめ自動車のさまざまな部分やカメラ、パソコン等に使用されているマグネシウム。用途の広い次世代耐熱マグネシウム合金は、それだけ産業界の期待も大きいといえます。



「支払い日」に対する疑問が 起業のきっかけに

最近の学生は起業に興味を持つ人も多いようですが、私は起業するつもりなど全くありませんでした。だから、大学卒業後は上京して大手商社に入りま

した。でも、入社から2年後「同期と同じ土俵で同じことをやっていてはだめだ」と思い、社内でもやったことがない分野をめざして、金融サービス業の子会社への出向を希望しました。その子会社で営業マンとして融資案件を扱う中で、取引先のマンション業

者から「モデルルームの施工を頼んだ工務店が資材の調達費用を工面してくれというのだが、1社だけ優遇するわけにはいかない。何とかならないか」と相談を受けました。マンション業者は「代金は必ず後で払う」というのだから、融資しても回収できると思いまし

卒業生を訪ねて

株式会社フィデック 深田 剛さん
代表取締役

「支払い日」を「受取り日」に変える！ 商習慣の変革に挑戦する若き経営者

商取引ではしばしば、代金の支払いが数か月先になることがあります。法学部出身の深田剛さんは、ここにビジネスチャンスを見つけ、企業の支払い事務をアウトソーシングで受注し、支払いを代行する新しいビジネスモデルを考案。30歳で金融サービス「フィデック」(本社・東京都千代田区)を設立、2005年12月に37歳の若さで東証一部上場を果たしました。「日本の商習慣を変えたい」と、夢に向かってまっしぐらに走る深田さんにお話をうかがいました。

たが、上司の許可は出ませんでした。

この経験もあって、モノやサービスの流通は早いのに代金の支払いが遅いのはなぜかと素朴な疑問を持ちました。従来の支払いの仕組みは、支払う側が主体で、物品やサービスを納入した業者が売掛金を回収できるのは2〜3か月後が当たり前。少しでも早く現金を支払ってもらった方が受け取る側の中小企業、特に零細企業は助かるし、時には倒産を免れる場合もある。そうすると、日本全体が元気になる。それなのに、どうして受け取る側が期日を選べないのか？ でも、だれもこの問題に正面から取り組んでいなかった。特に、大手の金融企業はそう。面倒だし、コストがかかるからです。よし、だれも手をつけないなら、自分がやろう。そう思ったのが起業のきっかけです。

2つの選択肢で迷った時はあえて困難な方を選んでみる

大企業を辞めて一から会社を興すことは非常にリスクが高い。でも、自分起業することで、世の中を変えられるかもしれない。この2つを天秤にかけた時、前者は大したリスクじゃないなと思っただけです。たとえ起業に失敗しても、今の時代、そう簡単に死ぬことはありません。アルバイトでもして、月に

10万円もあれば何とかやっていける。ここまで来たらとことんやってみよう、と。

私は、社内よりも社外の人たちとのつながりや人脈を重視していたので、悩んでいる時に相談したのも、先輩起業家など社外の人たちでした。起業した後もさまざまな困難に直面しましたが、そういう人たちに相談して決して諦めなかった。自分の意見を曲げない頑固さ、いわゆる「肥後もつこす」ですね。これが太いに役に立ったと思います。

私の経験から言っても、2つの選択肢で迷った時は、あえて困難な方を選んだ方が結果は上手くいく。そして、その方が可能性が広がる。さらに付け加えるなら、決して諦めないでいれば勝負に負けたことにはならない。

「頑固さ」「や」粘り強さ」を付加価値として大いに活かして

大学時代はごく普通の学生でした。成績が特に良かったわけでもなく、ほとんどが「可」。高校までずっとサッカーをしていたので、文化系のサークルに憧れる気持ちもあって、書道部に所属しました。今思えば、このサークルで対外的な折衝を受け持ち、飛び込みの営業のようなことをやったことも、

起業に役立つと思っています。潜在的な能力は、地方の学生の方が高い。でも、地方の人ほど地元志向が強い。もちろん、地元で就職することが悪いというわけではありませんが、自分から可能性を閉ざしてしまうのは非常にもったいない。都会では、地方大学の出身者は珍しい。珍しいとチャンスも生まれやすいんです。この珍しさに、熊大生の「頑固さ」「粘り強さ」を付加価値として、大いに活かしてほしいですね。

うちのビジネスモデルは、「原因を突きとめて、解決して、実行する」という極めてシンプルで単純なもの。他人が苦手なこと、考えつかないことをやれば成功します。必要なのは、思いついたことを実行する行動力。上場することによって新しい舞台が開けました。それが私の夢ではありませんでした。夢は日本の商習慣を変えること。起業の原点になったように、受け取る側がいつ現金を受け取るかを選べるサービスを広げ、いつか「支払い日」という言葉を「受取り日」に変えたい。そしてこのサービスを日本中に定着させ、いずれば世界へと広げていきたいですね。

フィデックの支払い受取りのビジネスモデル



工事依頼者と取引先事業者等の間にフィデックが入ることにより、取引先の工事業者等は、①工事を終えた後、②フィデックから立替払いによる現金をすぐに受け取ることができ、③90日後にフィデックが工事依頼者から現金を受け取ることで、現金の流れ(キャッシュフロー)が完了する。これにより、手形は不要になる。
※C.F(キャッシュフロー)：ビジネスにおける現金収支

従来の支払い・受取り



従来の支払い・受取りでは、取引先の工事業者等は、①工事を終え、②請求書を送った後、代金としてすぐに現金を受け取るのではなく、③「90日手形」を受け取る。手形を現金にできるのは90日後と時間がかかる。

PROFILE

深田 剛(ふかだ・つよし)

1968年熊本生まれ。熊本大学法学部を卒業後、伊藤忠商事に入社。退社後、1999年5月に金融サービス「フィデック」を設立して、2005年東証一部上場。資本金34億800万円。取扱高は2005年度1903億円(前年比66.7%増)。従業員数161人。成長力や事業の収益性を総合的に評価した日本経済新聞の「2005ベストIPO(新規株式公開)調査」で全国第2位にランクイン。
<http://www.fiddec.co.jp/>

国際交流

熊大の「知」を世界に売り込む

グローバル化の進展や国立大学の法人化などを背景に、大学の国際化にも戦略を持つことの重要性がますます高まっています。そのため熊本大学は2005年4月に国際戦略室を設置、12月に初代室長に民間出身の菊地晋一さんを起用しました。着任から1年。本学の新たな国際戦略を構築しようと奮闘中の菊地さんに、豊富な海外経験を活かした今後の国際戦略に関する抱負などを語っていただきました。



研究・国際部 国際課 菊地 晋一



国際戦略室は、黒髪北地区大学教育機能開発総合研究センター2階にあり、研究者交流、海外大学との交流協定、国際関係の研究助成金の申請業務のほか、JICAとの国際開発協力プロジェクトの受注、海外フォーラムの企画・開催、海外オフィスの運営など、大学の国際化を進める業務を担当しています。

異文化コミュニケーションを極めたでこぼこキャリア

「米ペンシルベニア大学の東アジア文化学部で日本語講師をしていたとき、インターネットで熊本大学が国際戦略室長を公募しているのを知りました」という菊地さん。「調べてみると、熊本大学は五高時代から120年の伝統があり、医学部や工学部などの研究は世界でも最先端のレベルを誇っている。また、法人化によってさらにアグレッシブな大学へと変わろうとしていて、これは面白そうだ。ここなら、自分のこれまでの経験が活かされると、即応募しました。時期としても2人目の子どもが生まれ、そろそろ日本に帰りたいと思っていたこともありましたが…」と率直な言葉で転職の動機を語ります。

もともと異文化に対する興味や関心があり、大阪外国語大学でモンゴル語を専攻。88年に卒業後、株式会社神戸製鋼所では、国内営業を2年経験した後、海外営業担当として20数回海外に出張、同社のシンガポール現地法人での勤務や、本社人事部で初めて留学生の採用を手がけるなど、数多くの国際経験を積みました。また、98年に同社を退職した後は、スウェーデン企業のマー

ケティングマネージャーを務めたり、米国IT企業のウェブサイト翻訳をしたりしながら、常に異文化交流の現場に身を置いていました。「ほんとにバラバラ、一貫性がないキャリアで、唯一のキーワードは“異文化”なんですよね」。

その後に留学した米国アイビーリーグ(※)の一つ、ペンシルベニア大学教育大学院では異文化コミュニケーションを専攻。今度は留学生の立場で異文化交流を学ぶとともに、アジア系移民の老人ホームで2年間ボランティアをしたり、会社員時代に週1回日本語学校に通って取得した日本語教育能力検定試験の資格を活かして現地の日本語補習校で日本語を指導したりして、大学院修了後はペンシルベニア大学で常勤の日本語講師になったという異色の経歴。室長に採用されたのも、こうしたいろんな立場で異文化交流に関わってきたことが高く評価されてのことでした。

手ごたえを掴んだ韓国フォーラム

民間ビジネスを経験しただけに、着任以来ずっと、熊本大学の優れた研究や教育リソース(資源)を世界の顧客にどう売り込めば世界標準の大学としての存在価値を高められるのか、国際交

流の成果をより効果的に高めるためにはどうしたらいいのかなど、国際戦略に関する命題をマーケティング的な思考で考え続けている菊地さん。昨年9月の「熊本大学韓国フォーラム2006」では、企画運営を担当しました。

「コミュニケーションはネゴシエーション。互いの探り合いです。この人はどういう人なのか、どう話したら自分の思いが伝わるのか」と思い悩むこともあるけれど、それを乗り越え、自分のアイデンティティをぶつけることでコミュニケーションが生まれる」という信念のもと、韓国側担当者や頻繁に連絡を取り、熊本大学の窓口としてフォーラムを成功に導きました。

「もつと上手に段取りできなかつたかと私自身反省する点は山ほどあるのですが、学長の強力なリーダーシップの下、全学的な取り組みとして実施でき、大学や研究機関、企業など、参加機関の知識や技術の交流を通して、非常に有益な交流ができたと思います。また、多くの方から『地方の大学が単独でこうした催しを開催するなんてすごい』とお褒めの言葉をいただき、大学が国際交流を行う意義を直接感じられたことも嬉しかったです。今後の熊本大学の国際戦略構築に向けて大きな手ごたえを掴むことができました。」

効果の最大化を目指し果敢に挑戦を

「戦略というからには、可能な限り目的と効果を明確にすべきだし、差別化も重要だと思います。でも、国際交流の効果はなかなか読みにくいし、限られたリソースで独自の効果を最大化することは決して容易いことではない。ただ、結果が読めないからやらない“、”リソースが少ないからやらない“のでは、グローバルゼーションが進む時代の趨勢から取り残されます。持てるリソースと効果の最大化を考えながら、もつと戦略的に熊本大学を世界へ売っていきたいですね」。最後はとびきりフレンドリーな笑顔でこう締めくくりました。

PROFILE

菊地 晋一(きくち・しんいち)

青森県出身。大阪外国語大学卒業後、株式会社神戸製鋼所、スウェーデン企業の日本法人などを経て、2001年米ペンシルベニア大学教育大学院に留学。同院修了後、同大で日本語講師を務め、2005年熊本大学国際戦略室長就任。

※アイビーリーグ：米国北東部にある私立大学8校の通称。所在地が北の大学からダートマス大学、ハーバード大学、ブラウン大学、イェール大学、プリンストン大学、コーネル大学、コロンビア大学、ペンシルベニア大学。

医学部附属病院 熊本県がん診療連携拠点病院に

本学医学部附属病院(以下、本病院)は、特定機能病院として高度な医療を提供する中で、「乳腺・内分泌外科」及び「放射線治療科」のほか、「がん診療センター」や「外来化学療法センター」を設置し、先進的ながん医療に取り組んできました。この実績が認められ、本病院はこのほど厚生労働大臣から「熊本県がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。

「がん診療連携拠点病院」は、全国どこでも質の高いがん医療を受けられるよう、がん医療水準の「均てん化」を目指し、昨年国が定めた「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に基づいて、各都道府県に概ね1か所の病院が指定されています。本病院は熊本県から協力要請もあり、指定申請をしていました。

この指定を受け、本病院は拠点病院として、中心的な役割を担う「がん診療センター」に11月1日付で専任のセンター長を配置。「地域医療連携センター」にセカンドオピニオンの受付を置き、診療情報管理士による院内がん登録を実施するなど、いつそうのがん診療機能の充実

と診療連携体制の確保などを進めています。また、専門的ながん医療を行う医師、看護師、薬剤師等を対象にした研修並びに地域がん診療連携拠点病院等に関する情報提供、症例相談や診療支援についても、実施計画を検討しています。

地域の福祉と健康に貢献する本病院の理念に基づき、これまで以上に熊本県のがん診療における中心的な診療機能を担い、高度ながん医療の提供と開発推進に努めます。

お知らせ

「第3回熊本がん治療フォーラム」開催

■日時：平成19年1月26日(金) 18:30～

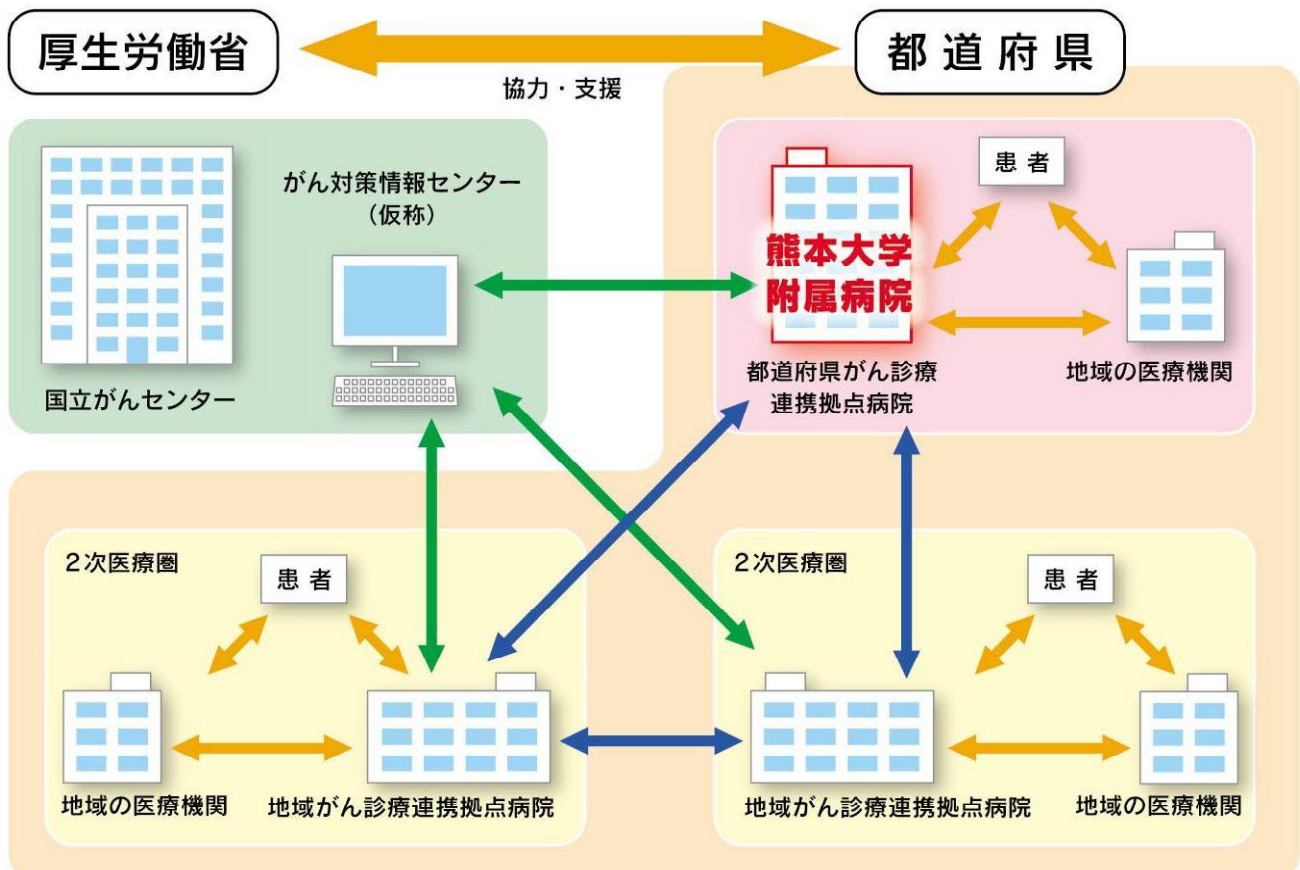
■場所：ホテル日航熊本

■問合せ先：熊本大学医学部附属病院

婦人科 大竹秀幸

TEL：096-373-5269

がん診療連携拠点病院制度のイメージ



熊本大学 ラジオ放送公開講座

RKK(熊本放送)で ON AIR! 毎週火曜 18:45~19:00

~有明海・八代海の再生をめざして~

シリーズ1「有明海・八代海的环境特性と環境悪化の要因、そして再生の方向性」

平成 18 年 11 月 7 日	環境異変の捉え方：その①原因仮説（沿岸域環境科学教育研究センター教授 滝川清）
平成 18 年 11 月 14 日	環境異変の捉え方：その②悪化の要因分析（沿岸域環境科学教育研究センター教授 滝川清）
平成 18 年 11 月 21 日	二枚貝が語る環境悪化の要因（沿岸域環境科学教育研究センター教授 逸見泰久）
平成 18 年 11 月 28 日	二枚貝に学ぶ再生への道（沿岸域環境科学教育研究センター教授 逸見泰久）
平成 18 年 12 月 5 日	「ノリの色落ち」に見る環境異変（沿岸域環境科学教育研究センター教授 瀧尾進）
平成 18 年 12 月 12 日	ノリ養殖のバイオテクノロジー（沿岸域環境科学教育研究センター教授 瀧尾進）
平成 18 年 12 月 19 日	海底堆積物が語る環境変遷（大学院自然科学研究科助教授 松田博貴）
平成 18 年 12 月 26 日	小さな化石が語る環境悪化の要因（沿岸域環境科学教育研究センター助教授 秋元和實）
平成 19 年 1 月 9 日	小さな化石が語る再生への道（沿岸域環境科学教育研究センター助教授 秋元和實）
平成 19 年 1 月 16 日	微生物の目から見た、干潟環境悪化のメカニズム（大学院自然科学研究科教授 木田建次）

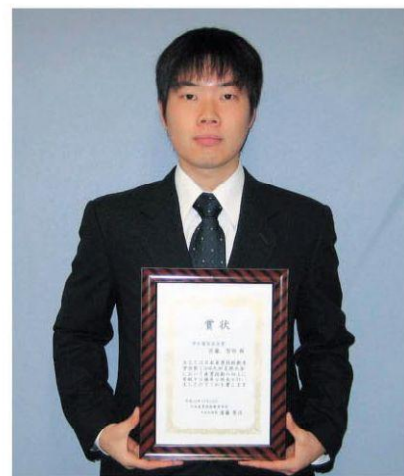
シリーズ2「再生にむけての取り組み・対策・提言」

平成 19 年 1 月 23 日	有明海・八代海再生の為の基本的考え方（沿岸域環境科学教育研究センター教授 滝川清）
平成 19 年 1 月 30 日	地域の人々が見る海的环境悪化と再生への道（沿岸域環境科学教育研究センター客員教授 鈴木武）
平成 19 年 2 月 6 日	「野鳥の池」にみる海域環境再生のヒント（沿岸域環境科学教育研究センター客員助教授 古川恵太）
平成 19 年 2 月 13 日	保全・再生に向けた九州地方整備局の取り組み（国土交通省九州地方整備局熊本港湾・空港整備事務所環境課建設管理官 高山英樹）
平成 19 年 2 月 20 日	九州農政局の再生への取り組み（農林水産省九州農政局整備部農地整備課課長補佐 粟生茂）
平成 19 年 2 月 27 日	再生に向けた県の取り組み（熊本県環境政策課環境立県推進室有明海・八代海再生推進班主任主事 齋藤信一郎）
平成 19 年 3 月 6 日	アサリ資源の回復に向けて（熊本県水産研究センター主任技師 生嶋登）
平成 19 年 3 月 13 日	植物・生物を利用した有害物質の除去（大学院自然科学研究科助手 中田晴彦）
平成 19 年 3 月 20 日	「なぎさ線回復」などによる現地実証実験（沿岸域環境科学教育研究センター教授 滝川清）
平成 19 年 3 月 27 日	更なる課題：「環境再生そして防災との調和を目指して」（沿岸域環境科学教育研究センター教授 滝川清）

* 各講座の概要等は生涯学習教育研究センターのホームページ (<http://www.lifelong.kumamoto-u.ac.jp>) をご覧ください
お問い合わせ先：熊本大学 社会連携課
E-mail : sos-tiiki@jimu.kumamoto-u.ac.jp TEL : 096-342-3121 / FAX : 096-342-3239

学生優秀発表賞受賞

熊本大学大学院教育学研究科教科教育専攻修士課程2年生の佐藤智昭さんが10月14日、平成18年度日本産業技術教育学会九州支部大会で発表した論文「電気より運動へのエネルギー変換教材の開発～回生ブレーキ用双方向電力変換回路～」は、産業技術の向上に貢献する優秀な発表と評価され、学生優秀発表賞を受賞しました。



Book
Vol.15

おすすめの一冊

留学生センター長
文学部教授
坂田 正治



坂田正治『ゲーテと異文化』

九州大学出版会

この貴重なページを利用して、自らの拙い著作の宣伝をする非礼を、悪しからずご容赦ください。日ごろから万事控えめで知られた(?)わたくしが、恐れ多くもこのようなはしたないことをするのも、ひとえに、ドイツ文学、というに止まらず、世界文学の至宝と言っても決して過言でないゲーテの豊かな文学世界を、少しでも多くの人に知ってもらいたいという一念によるものです。

そこで本書では、「異文化」を一つのキーワードにして、ゲーテ詩作品の幾つかを、テキストに即して読み解いてみようと思ってみました。それというのも、彼の豊かな文学世界は、古今東西の文物に対する彼の深い知見に裏づけられていると思われるからです。具体的には、古代ギリシア・ローマに対する憧憬と理解は言

うに及ばず、そのあくなき探究心は、はるか東方のオリエントやインドにまで及び、そこに繰り広げられる人間の生の諸相を、彼は宗教的ドグマや思想的イデオロギーにとらわれない、自由で伸びやかな人間愛に基づいて、縦横自在に描き出しているように思われます。

及ばずながら、そういう彼の真にグローバルな文学世界の一端を書き留めた本書によって、みなさんもそれぞれの想像力の翼を羽ばたかせながら、気ままな文学散歩に出かけてみてはいかがでしょうか?

熊本 新哲学の道

ハーンが見た「竜宮」三角西港

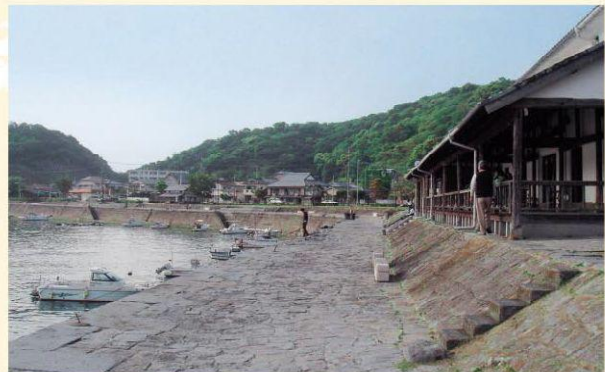
熊本市から国道57号を車で下ること約1時間、宇土半島の突端の急カーブを曲がると明治時代にタイムスリップしたかのような一角が広がります。石積みのでっぱりが700m余にわたって続く三角西港(宇城市三角町)です。

西港は、国の殖産興業政策に沿って宮城・野蒜・福井・三国とともに「明治の三大築港」としてオランダ人技師の設計により1887(明治20)年に開港。一尺五寸規格の石で埠頭や排水路を築き、郡役所や税関、回漕店や倉庫、町屋などを計画的に配した貿易港として栄えました。当時の石積みはほぼ無傷で残っており、2002年に国の重要文化財に指定され、現在は世界遺産の登録に向けて文化庁に申請中です。

五高教師だったラフカディオ・ハーンは1893(明治26)年



7月、長崎に遊んだ帰りに西港で一泊しています。女将から宿の屋号を「浦島屋」と聞いたハーンは大いに喜び、自



ら浦島太郎の存在に重ね、その時の印象を基に「夏の日」を創作します。

「夏の日」でハーンは「その宿は私にとっては極楽、そこ女中達は天人のように思われた」と書いています。そして「一切のものが青かった」と。作品の中でハーンは問い掛けます「(竜宮は) どうしていつも青いのですか」。すると乙姫は答えます。「私が雲を皆箱(玉手箱)の中に入れたからです」

15年ほど前から、西港は旧三角町によって倉庫を改装したレストランや廻船問屋、物産館などが整備され、ハーンが竜宮を夢見た浦島屋も復元されました。復元された浦島屋は築港当時の資料などが展示され自由に入れます。国道57号を隔てた山腹には大正時代の法廷が残る裁判所なども見ることができます。私は昼下がりの浦島屋のバルコニーが好きです。傾きだした陽光が青い海をキラキラと輝かせ、とても幻想的です。

(生涯学習教育研究センター助教授 平岡義裕)

夏目漱石の写真や自筆の試験問題などが並ぶ記念展「五高時代の漱石先生」

—熊本大五高記念館

漱石先生、身近に



直筆試験問題など公開 五高記念館

夏目漱石の小説「草枕」の巻頭には「教育は信國と二十日の発表百年に 基礎、教師と生徒の信頼と」とある。熊本市黒髪の本館、昭和が教育の本本、という大五高記念館で三日、漱石 遺言の内容が書かれた、教師直筆の試験問題など初公開として、漱石像を物語る。開する記念展が開催した。ホトリ部長として出席作家の出久根隆郎氏の講演。勝利を収めたレスの新会も開かれ、熊本時代の漱石 遺言、赴任先の九州の石の墓園に追った。いすれ 旅行先を示した大鏡パネルも同館主催。

漱石は八九五（明治二十八年）五高の英語教師として松山の赴任、四年三才を熊本で過ごした。五高時代の漱石先生と、自分たちがたんに懸念した記録の会場には、なる、小説は違っても、懸念の際に漱石が提出した、ある、など、漱石が、問題写真を約十点を、入場無料、休館日（火曜）年代別に展示、開校十周年、卒の午時、午後四時、記念式典で授けられた祝辞。

漱石先生 二百年 100年

11/4 熊本日日新聞

—第61回県美展—

大賞に松永さん（熊本大助教授）



第六十一回県美展（熊本市）の洋画部、松永さん（熊本大助教授）の「か、い星を背負う」が、大賞に選ばれた。入賞、入選二百三十二点を数えた。

松永さんの受賞作は、若い女性が暗室に包まれ、背後に感音が浮かぶ、心象風景を黒や赤の深々とした色調で表現、世界へ誘い込んでしまふようなインパクトがある」と評価された。

入賞入選作に、松永さんの作品を加えて、四十七点を展覧する作品展は十七日（土）日、県立美術館本館洋画デザイン（この分館（他の四部門））で、表形式は二十一日午後四時から熊本市桜町の熊本交通センターホテルである。（小林義人）

熊本大賞に選ばれた松永さんの洋画「か、い星を背負う」（水彩画）

10/11 熊本日日新聞

中山間地の振興探る

芦北町・熊本大 研究連携で協定

立大学法人熊本 協定



芦北町と熊本大学が、中山間地の振興をテーマにした研究連携協定を締結する。協定は、中山間地の振興をテーマにした研究連携協定を締結する。協定は、中山間地の振興をテーマにした研究連携協定を締結する。

芦北町と熊本大学が、中山間地の振興をテーマにした研究連携協定を締結する。協定は、中山間地の振興をテーマにした研究連携協定を締結する。

12/5 熊本日日新聞

状況に合わせ避難

熊本市の壺川校区

熊大と住民 連携し水害訓練



熊本市の壺川校区で、熊大と住民が連携して水害訓練を行った。訓練は、壺川校区の壺川小学校で行われ、熊大の教員と住民が参加した。

熊大と住民が連携して水害訓練を行った。訓練は、壺川校区の壺川小学校で行われ、熊大の教員と住民が参加した。

11/1 熊本日日新聞

避難訓練は、マツリするとして避難先を

大賞に松永さん（熊本大助教授）

熊大と住民 連携し水害訓練

熊大と住民が連携して水害訓練を行った。訓練は、壺川校区の壺川小学校で行われ、熊大の教員と住民が参加した。

熊大と住民が連携して水害訓練を行った。訓練は、壺川校区の壺川小学校で行われ、熊大の教員と住民が参加した。

11/13 熊本日日新聞

編集後記

広報担当の理事として「熊大通信」創刊時から本学の広報の充実に努められた平山 忠一理事・副学長が昨年11月中旬で退任された。国立大学時代の大学広報は、入試広報はあっても、大学の広報自体にそれ以上の意味を認めていた人は多くはなかった。平山先生はそのような時代に、マーケティングのセンスを注入し、また大学の重要な戦略的広報としてのあり方を問い、その充実・発展についていつも熱く語られたことが懐かしい。たしかに法人広報以降のPR としての広報が目立つられるとともに、社会とのコミュニケーション媒体、そして法人としての情報面における危機管理といった意味合いも大きくなってきているのだと感じる。自らも絵筆を取られ芸術への造詣が深かった平山先生には、この熊大通信の特徴である表紙を飾る絵についてたくさんのアドバイスをいただいたり、内容の構成などについても助言をいただいていた。創刊時からの編集長として一人残ってしまったいま、この情報誌をどう発展させていったらいいのか先生との議論を反芻し問い返している。（上野真也）

編集委員

(委員長) 上野真也 政策創造研究センター
 桑 和彦 発生医学研究センター
 田中尚人 大学院自然科学研究科
 西村兆司 広報戦略主幹

熊本大学広報誌 熊大通信 KUMADAI TSUSHIN

皆様のご意見・ご感想をお寄せください。

2007年1月発行 編集 / 熊大通信 WG 発行 / 熊本大学
 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号 TEL.096-342-3119 FAX.096-342-3007
 sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学公式ホームページ
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

寺田寅彦が学んだ階段教室

化学の実験場として使用された
旧制第五高等学校階段教室
幾多の俊才がここで学んでいた

地球物理学や結晶解析分野で先駆的研究を行った物理学者
寺田寅彦もそのひとり
彼はまた、夏目漱石に英語と俳文学を学び
科学と文学を調和させた名随筆を残している

名作「我輩は猫である」の登場人物水島寒月のモデルともいわれ
「天災は忘れたころにやってくる」の名言も寅彦の言葉とされる

「文理両道」を実践した寺田寅彦の偉業
その懐の深い知性は、熊本で培われ磨かれた



熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム

五高記念館は国の重要文化財に指定され、本学のシンボルとなっています。このほかにも、重要文化財等の赤煉瓦建物群や登録文化財となっている建物、また、他のキャンパスで保存・活用されている施設があり、これらの建物・施設・資料等から成る熊本大学博物館の実現を目指しています。その第一歩として、平成18年度から五高記念館の整備に着手し、高等教育研究資料館としての個性を持たせ、ラフカディオ・ハーンや夏目漱石など、いくつかのテーマごとに史・資料の整備を進め、展示・公開できるよう計画しています。



[開]10:00~16:00(入館は~15:30) [休]火曜、土・日曜を除く祝日 入場無料 TEL:096-342-2050